

2016年3月15日

## 2015年度後期授業評価のまとめ

教務学生委員会

今年度後期の授業アンケート調査の結果を要約し、今後の課題について確認する。後期に授業を実施したほとんどの基幹教員から回答が得られており、参加率は非常に高い。概要を以下に記す。

授業区分	授業登録数	回答数	回答率(%)	設問 III-I: 授業満足度					設問 III-II: 授業達成度				
				1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
研究科 共通科目	18 (0)	18	100	0	0	2	6	10	0	0	1	11	6
DID	92(12)	82	89	2	2	4	36	38	3	0	12	27	39
DICOS	72 (8)	67	84	0	1	2	23	41	0	2	1	16	47
DICOM	90 (8)	76	84	0	1	1	22	52	0	0	2	24	50
合計	272 (28)	243	81	2	4	9	87	141	3	2	16	78	142

※設問 III-I および III-II の 1～5 は、5 が満足度・達成度ともに最も高く、1 が最も低い

※回答数欄の( )内の数字は回答した聴講生の数

1. 設問 III の満足度・達成度ともに、昨年度とほぼ変わらず、平均して高い評価を受けている。
2. 難易度については、専攻間で回答傾向が異なった。学生からの評価が分かれた専攻は「各年の学生により、難易度の設定が難しいことがうかがえる」、すべての学生が「ちょうどよい」と評価した専攻は「内容は現状を維持し、よりわかりやすい説明を工夫したい」としている。「難易度が低かったので、次回は少しあげようと思う」と回答している専攻からは、「現場感覚のない若い学生が増えている。当然わかっていると思う昔ながらの議論も改めて教える必要性を感じる」とのコメントもあった。

3. 授業内容については、要望の高さを受けて、学生の参加を促す形式を取り入れている教員が多く見受けられる。結果、学生は一方向の授業よりも満足感を得ているようだ。同時に、議論を活発化させるためには、事前に資料を読み込むなど、予習を行う必要性があるとする意見が学生・教員の双方からあった。教員からは、予習をきちんとなした者とそうでない者の授業参加度や理解度に差がある、課題をこなせなかったと回答している学生に、授業の満足度が低い傾向がみられる、との指摘もあった。

学生からの要望・意見と、実施した改善策に関する教員からの回答のうち、主だったものを以下に記す。

#### (1) 学生からの要望・意見

##### ① 授業内容について

フィールドワークの導入や、ロールプレイ・ディスカッション・プレゼン等の学生が参加する授業形態への要望が高かった。また、授業内容をよりよく理解するための演習やケーススタディ、グループワークを希望する意見も複数あった。一方、「全く新しい分野であったので、従来型の講義中心の方がよい」との意見も一部あった。

##### ② 授業の進め方について

理論や概念について理解するための解説や、論点整理を求める意見が目立った。また、「授業の中で扱うトピックを事前に明示してほしい」「トピック数を厳選し個々の問題の考察を深めた方がよい」「復習時間を十分に取れる時間割にしてほしい」「小テストが授業の復習に役立った」「資料は電子媒体で配布してほしい」「資料の内容が古い」といった意見があった。

##### ③ 学生の積極性について

授業に積極的に参加する姿勢が必要とのコメントが多数あった。同様に、「参加者各自の意見をクラスで述べることで授業への理解が深まる」「生徒同士の討論があるとおもしろい」「分野の重要トピックについて常に注目し、知見を共有して互いを刺激しあうことが重要」といった意見があった。

#### (2) 改善策に関する教員からの回答

① 学生の参加を促す方法を検討した、② 授業で扱うトピックを工夫したと回答した教員が多かった。①には「学生の関心に沿うテーマ・内容を選び、実感がわきやすく、体験

的に納得できる授業を心がけた」「経験や考えの交換を目的に、ディスカッションやプレゼンテーションの機会を設けた」「授業の半分を学生によるプレゼンテーションにあて、教員はトピックに関する基本事項、理論的説明のみを行った」「前半から後半にむけて、徐々に学生の発言の機会を増やすことで主体的な学習を促す仕掛けを強化した」といった回答があった。②には「授業で扱うトピックや宿題の内容を更新し、科目が扱う分野での大きな状況変化や今日的なテーマへの関心が高まるよう心がけた」「国内の事例について英語の文献を使って紹介した。リーディングマテリアルの量を、質が落ちないように焦点を絞りつつ減らした」「授業の狙いを事前に説明し、講義と演習の論点の結びつきが意識できるよう働きかけた上で講義を開始した」「1回の授業で1つのテーマを完結させるよう心がけた」などの回答があった。

### (3) 今後さらに改善すべき点

①授業の目的やテーマ設定については、現状通り、おおむね良好とする複数の意見に加え、以下のような意見があった。「とりあげた事例が古くなってきており、より新しい事例を用いて学生に学ばせる必要を感じた」「異なる関心に応えるため、多くのテーマを幅広く紹介するのがよい」「各授業でとりあげるテーマのあいだの関連を、大局的な視野から説明する機会をより多く設けるべき。また、研究者のあいだで注目を集めている現象を、より積極的に紹介できることが望ましい」「内容の精査とアップデートに努めているが、学生の考えるアプローチと私のアプローチが異なる場合があるためか、一部の学生に不満が出た」。

②教授法については、予習時間の確保、映像資料の追加、プレゼン手法の説明等が必要とする声があった。また、「討論を中心に授業を組み立てたかったが、そもそも発言が少ないとそれも難しい」「ディスカッションの際は、英語での発言が得意ではない学生に配慮する」「授業の最後に「まとめ」をつけるかどうか検討したい」「前週の復習に基づく小テストによる定着と、予習に基づく学生からの質問への解説を中心した授業形式を続けたい」との回答もあった。

4. 課題の量については、適量と判断する意見が多かった。一方で、「自分の授業で多くの課題を出すと、その分他の授業に影響すると思う」「分量が多くても少なくても、読まない学生は読まない。読ませるための工夫が必要」との回答もあった。

教材の量と内容については、適切とする声が大半を占めたが、「もっと多く配布すべきかもしれない」という回答もあった。他に、「電子媒体での資料配布を行う」「事前に配

布する資料を追加する」「教材によって、学生の事前の下調べや授業での発言がより積極的になったと思う」「最新の文献を使うために、教員が専門外の幅広いテーマについて勉強する時間も必要」との意見もあった。

5. その他、教員の意見を抜粋して記しておく。

学生への授業への取り組みについては、学生は興味を持って熱心に取り組んでいるとの回答が最も多かった。一方で、「大学院生として自分で考えて自分で勉強するという自立心が足りない」「もう少し積極的に討論や質疑に参加してほしい」という意見もある。また、「学生の熱意と取り組みには関連がありそうだった」「NUCT でファイルへのアクセスを分析すると、読書の課題は、学生の自己報告ほどはきちんと読んでいないと思う」との指摘があった。

授業評価については、以下のような回答があった。「授業評価を毎度やっていると、学生も教員もマンネリ化して、あまり本音は書いてこないような気がする。自由記述欄の記載も少なかった」「学生の授業参加度がまだ十分ではないと学生自身も私も評価している。ただ、それにしては学生からの具体的な提言は出てこない。アンケートの限界か」。